

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

整理番号 756

事業名	山林協議会補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	農業振興部	農林振興課		款	農林水産業費・6款
電話	0799 - 43 - 5025			項	林業費・2項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	林業総務費・1目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり			
	まちづくりの目標	ふやさなか 食づくりの担い手【農漁業】			
	施策目標	食づくりの源である豊穰の大地と海を守り、農業や漁業に携わる市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる			

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対 象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)				
		成相生産森林組合、中の子生産森林組合、諭鶴羽河内山林委員会、上田河内山林委員会	構成人数(人)	82		
		活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 四河内山林委員会における活動(研修会等)の補助。				
	実施内容	(主な事業、活動内容等)				
		年度毎の総会、各種役員会の開催。各種研修会への開催および参加。				
	団体の概要	(どのような団体か、活動目的、活動内容など)				
		成相生産森林組合、中の子生産森林組合、諭鶴羽河内山林委員会、上田河内山林委員会の4団体より構成され、諭鶴羽山系を中心とした森林の保全や造林事業をおこなっている。				
	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体	<input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 ()	<input type="checkbox"/> 旧町単位 ()	<input type="checkbox"/> 旧村単位 ()
	補助金算出根拠					
	補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし			
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)					
	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から					

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インパクト	直接事務費 (千円)	130	0	130	0
	山林協議会補助金	130	0	130	0
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	130	0	130	0
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	130	0	130	0
	「構成人数」一人当り経費 (千円)	1.6	0.0	1.6	0.0
受益者人数(82)一人当り経費(千円)	1.6	0.0	1.6	0.0	
経費に関する 補足説明					

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 各委員への事務連絡や研修会開催および参加経費に充てられている。	自己評価 (5点評価)
		3
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 四河内山林委員会および成相生産森林組合、中の子生産森林組合、諭鶴羽河内山林委員会、上田河内山林委員会ともに、独自に事務をおこなっており、本補助金はその事務および事業に大部分が当てられる。しかしながら、公共性ということではそれほど高くないと考えられる。	自己評価 (5点評価)
		3
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 現在、南あわじ市では、山林関係の組織として成相生産森林組合、中の子生産森林組合、諭鶴羽河内山林委員会、上田河内山林委員会の4つの組織があり、四河内山林委員会がこの4つの組織の総括として各組織間の相互連絡・調整を担っている。この4組織は諭鶴羽山系の保全、造林事業、詳しくは林道整備や補修、公団による造林事業および各種研修会や役員会をおこなっている。本補助金については、大部分がこれらの事務費、参加費に充てられ、諭鶴羽山系の山林の維持活動に活用されている。	<p style="text-align: center;">評価グラフ</p> <p style="text-align: center;">費用対効果 必要性</p>

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	<p>近年、農業従事者の高齢化や後継者の不足が問題となっているが、それと同様に山林事業においても林業の衰退などにより、山離れが加速している。本市の主要産業である農業、水産業のバックグラウンドであり、災害面においても貴重な存在である山林は保全しなければならない南あわじ市の財産である。以上のことから、今後についても他産業と同様、後継者の育成・確保が必要であり、市としてもそのサポートが重要であると考えられる。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>本補助金については、各山林委員会の研修会等の経費に充てられており、研修会等の開催方法の再検討が必要になってくると考えられる。</p>	